

大型クラゲ分布調査

(大型クラゲ出現調査及び情報提供事業)

吉田太輔・金元保之

1. 大型クラゲ沖合域分布調査

(1) 調査方法

令和元年8月19日～8月20日に、調査船「島根丸」により LC ネット（網口の幅×高さが10m×10m）を用いてエチゼンクラゲの調査を行った。また、ブリッジから目視調査を行った。

調査定点は図1のとおりで、LC ネットを水深50mまで沈め、1分間斜め曳きを行った後、巻き上げ速度毎秒0.3mで揚網した。

(2) 結果

全ての定点で LC ネットでは採集されず、目視においても確認できなかった（付表1）。

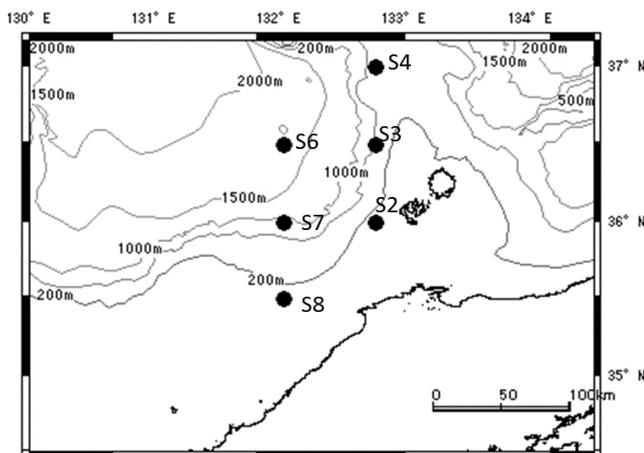


図1 洋上分布調査定点

2. 洋上目視調査

(1) 調査方法

7月29日～7月30日、8月15日に調査船「島根丸」で船上から目視による調査を実施した。調査定点は図2のとおりで、2マイルの距離を航走する間、船橋上両舷から目視されたエチゼンクラゲを大（傘径100cm以上）、中（傘径50～100cm未満）小（傘径50cm未満）のサイズ別に計数した。

また、8～11月に漁業取締船「せいふう」により航行中に沿岸域のクラゲ来遊状況の目視調査を行った。

(2) 結果

「島根丸」調査では、全ての定点で大型クラゲ

を確認できなかった。「せいふう」についても、8月2日に3個体を確認したのみであった（付表2）。

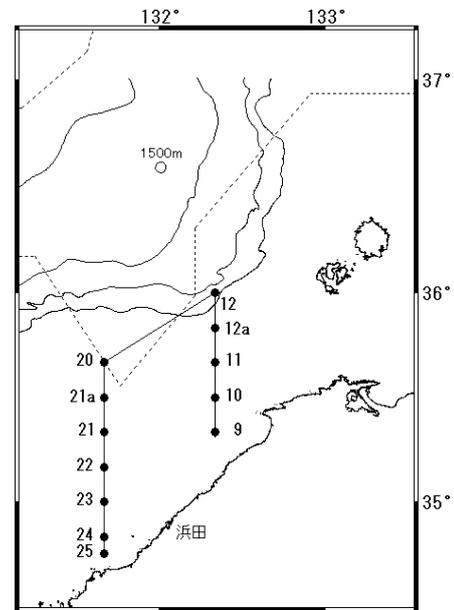


図2 島根丸洋上目視調査定点

3. 陸上調査

(1) 調査方法

6～9月の間、漁業協同組合 JF しまね各支所へ直接、もしくは各水産事務所を介して電話により情報を収集した。

(2) 結果

7～8月において、主に定置網で1日1ヶ統当たり数十～千個以上の大型クラゲの入網があり、8月中旬頃から終息傾向となった（付表3）。

4. 研究成果

調査結果は JAFIC が実施している大型クラゲ出現情報にデータとして提供した。また、大型クラゲ情報として FAX とホームページ上で情報提供を行なった。